

第 18 回 歴史リレー講座「大和の古道」 千田 稔氏 (H28.3.20)

ハイキングコースとしても親しまれている山の辺の道（桜井～天理）は一般的に「日本最初の道」といわれます。道の東近くに位置する崇神天皇陵と景行天皇陵について『記紀』と『延喜式』には、「山邊道勾岡上陵」「御陵は山邊の道の上にあり」「山邊道上陵」などと記されています。しかし、これだけでは山辺が固有名詞なのか、単に「山の辺り」という意味なのかは不明です。仮に固有名詞なら、「辺り」などと言わずもっと力強い響きがあってもよい気がします。実は文献に現れる崇神天皇陵、景行天皇陵と私たちが知る天皇陵が同じであるという保証はありません。現在、山の辺の道と呼ばれている道が本当に山の辺の道なのか…。これを史料によって判定することは非常に難しいのです。

みなさんは影姫の物語（『日本書紀』）をご存知でしょうか。恋人を武烈天皇に殺された影姫は、彼の亡骸とともに泣きながら奈良に向かって葬送の旅を続けました。ルートは海石榴市（現在の桜井市）→天理→大宅（百毫寺あたり）→春日→佐保川。影姫が歩いた道は山の辺の道なののでしょうか？あるいは奈良盆地を南北に走る幹線道路の一番東側の上ッ道なののでしょうか？難しくも興味深いところです。

次に飛鳥と斑鳩を結ぶ太子道についてお話しします。606 年、飛鳥小墾田宮の推古天皇は太子道を使って斑鳩（法起寺）まで出向き、聖徳太子から法華經の講義を受けました。西に約 20 度傾くこの道の痕跡は飛鳥にも斑鳩にも見当たらず、盆地の真ん中あたりにところどころに残るのみです。三宅町伴堂付近には太子道に沿って東西に直角に伸びるあぜ道が何本か残っています。大規模な土地区割計画のため造られたのか、あるいは天皇の屯倉^{みやけ}を造る際の原型になったのかもしれませんが。

三宅町の南方、田原本町黒田あたりには太子道とほぼ並行して西にもう一本道があります。私たち研究者はこの道によって太子道の道幅をおおよそ 30m と推定します。この広い道は推古天皇が利用しただけでなく、情報の通達にも使われた国家的な道だったと思われます。聖徳太子の住む斑鳩寺（法隆寺）の伽藍配置も同じく西に 20 度傾いています。ただ、太子ほどの要人がなぜ飛鳥に居を構えなかったのかは蘇我氏との関係から考えるとおおよそ見当がつきます。

遣隋使が通った道に話を進めましょう。大阪の難波津から大和川を遡って海石榴市（三輪山の麓）に到着した遣いの人々は飾騎^{かざりうま}で大歓迎を受け、陸路で飛鳥小墾田宮へ向かいました。これに対抗して新説が登場しました。難波津から海石榴市までは川ではなく陸路（保津・阪手道）を使った。そして海石榴市で数日間滞在後、阿倍山田道を使って小墾田宮へ向かったというのです。ずいぶん遠回りをしたものです。チマタ（道が交差する場所）である海石榴市でけがれたものをはらう禊のために滞在したというのがこの説です。しかし、チマタで外国からの使節に対して禊が行われたという史実は見当たりません。こじつけとしかいえない説です。

中国の「隨書倭国伝」には、遣隋使を迎える日本の対応を「…道を清め館を飾り、以て大使を待つ。…」と記しています。。また、「日本書紀」には「推古 21 年難波から京にいたる大道を置く」と記載されています。この道は橿原市八木あたりで下ッ道と交差する南の横大路です。

そもそも道とは「ミ+チ=神様のいらっしゃる地」という意味です。現に、北の横大路（龍田道、国道 25 号線）を東へ延ばすと天理の和爾下神社の鳥居に突き当たります。南の横大路を同じく東へ延ばせば忍阪山（外鎌山）、三つの幹線道路のひとつである中ッ道を南に延ばすと飛鳥のミハ山です。古代の道は宗教性を帯びているということです。

さて、この狭い奈良盆地になぜ上ッ道、中ッ道、下ッ道と三つも大きな道が造られたのか？おそらく、隋から使節に大規模な建設現場を示すことで随という大国に匹敵する都城計画をアピールしたのではないかと

と考えられます。

大和の古道

千田 稔

山辺道

崇神天皇陵

『古事記』『延喜式』

山邊道勾岡上陵(やまのへのみちのまがりのおかのへのみささぎ)」

『日本書紀』

山邊道上陵(やまのへのみちのへのみささぎ)

景行天皇陵

『古事記』

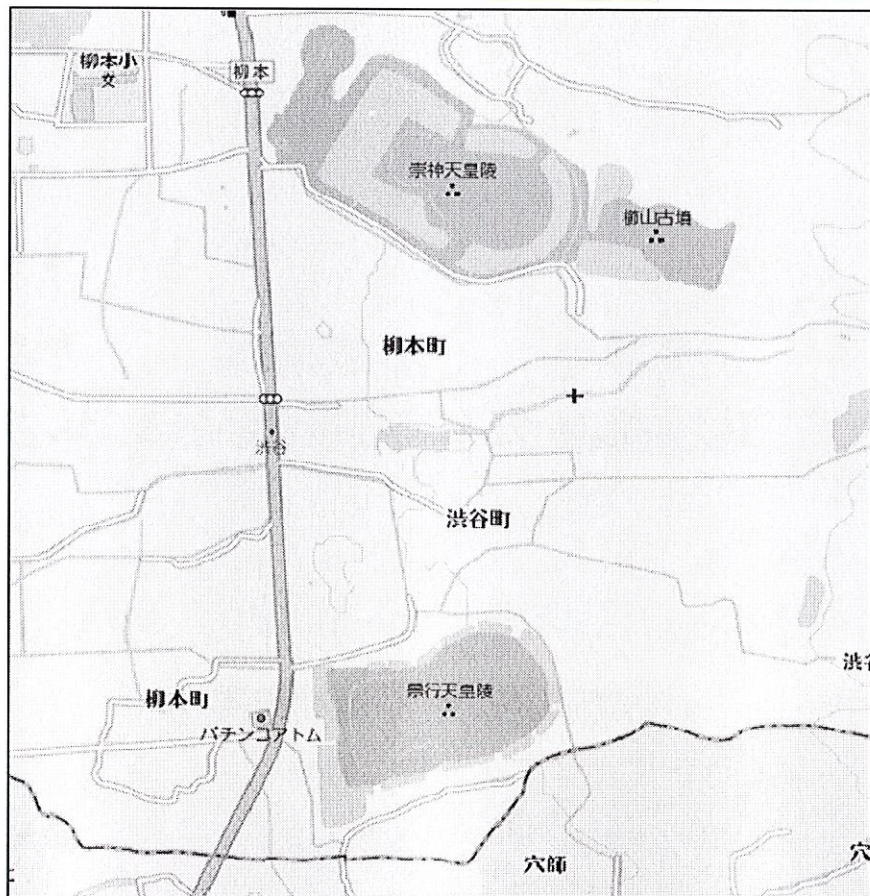
「御陵は山邊の道の上にある」

『日本書紀』

陵の記載なし。

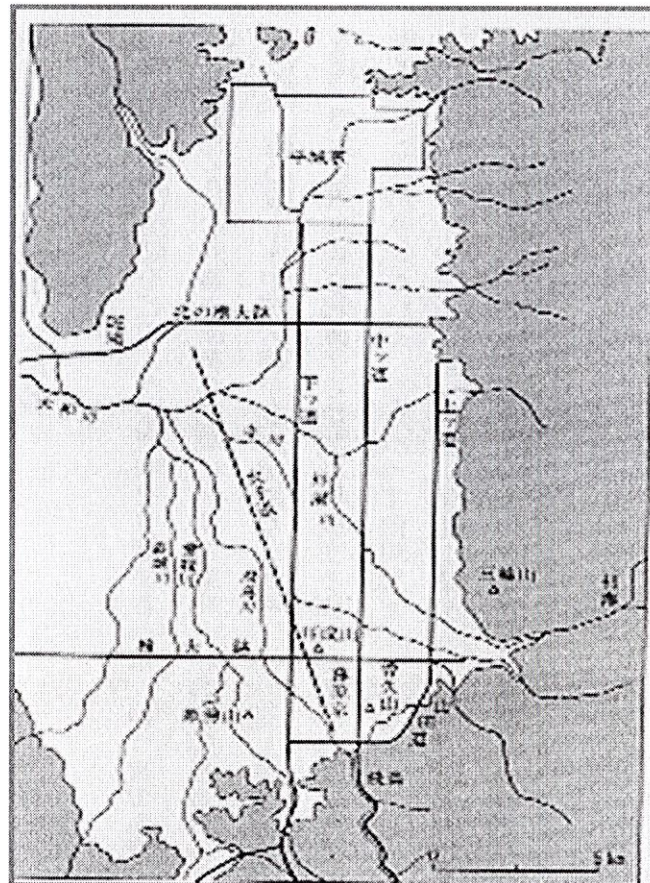
『延喜式』

山邊道上陵(やまのへのみちのへのみささぎ)」

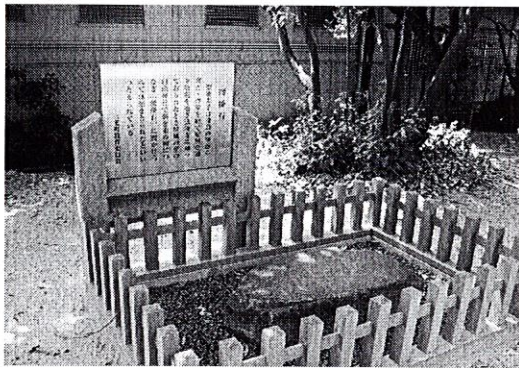
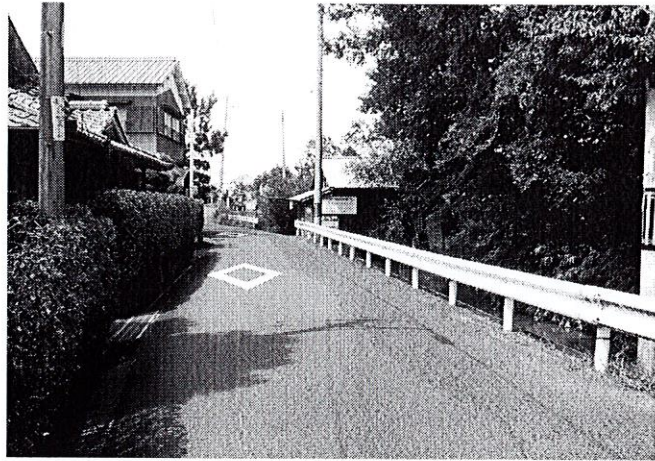


影姫

いすのかみ 布留ふるを過ぎて 薦枕こもまくら
高橋たかはし過ぎ 物多さはに 大宅おほや過
ぎ 春日はるひ 春日かすがを過ぎ 孀籠つまご
もる 小佐保をさほを過ぎ 玉笥たまけには 飯
いひさへ盛り 玉椀たまもひに 水さへ盛り 泣き
沽そぼち行くも 影媛かげひめあはれ



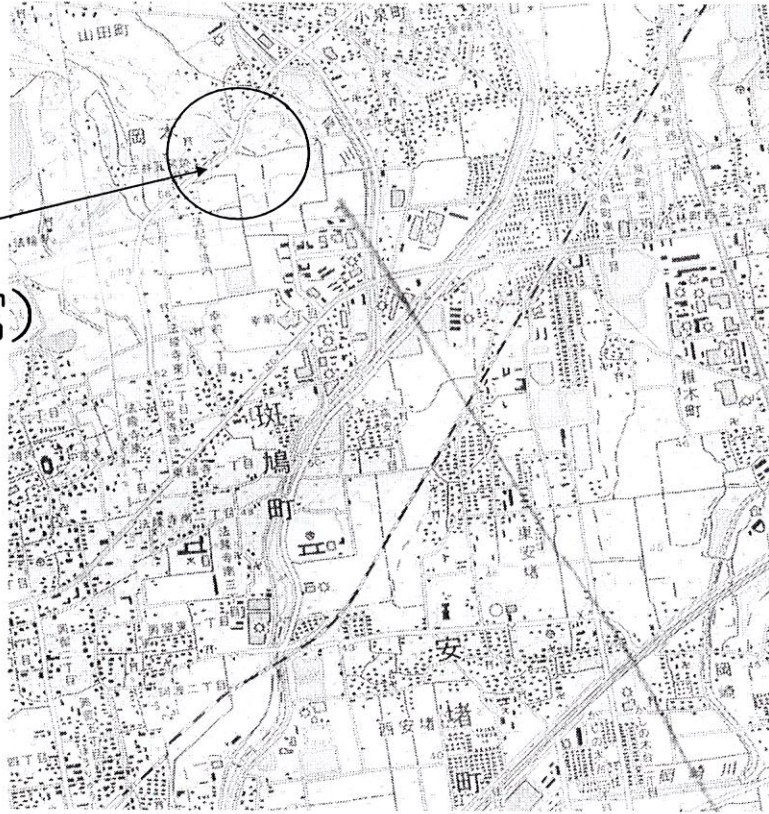
太子道



『日本書紀』推古14年（606）7月
「天皇、皇太子（聖徳太子）を請（ま）せて、勝鬘經を講（と）かしめたまふ。三日に説き竟（を）へつ。」

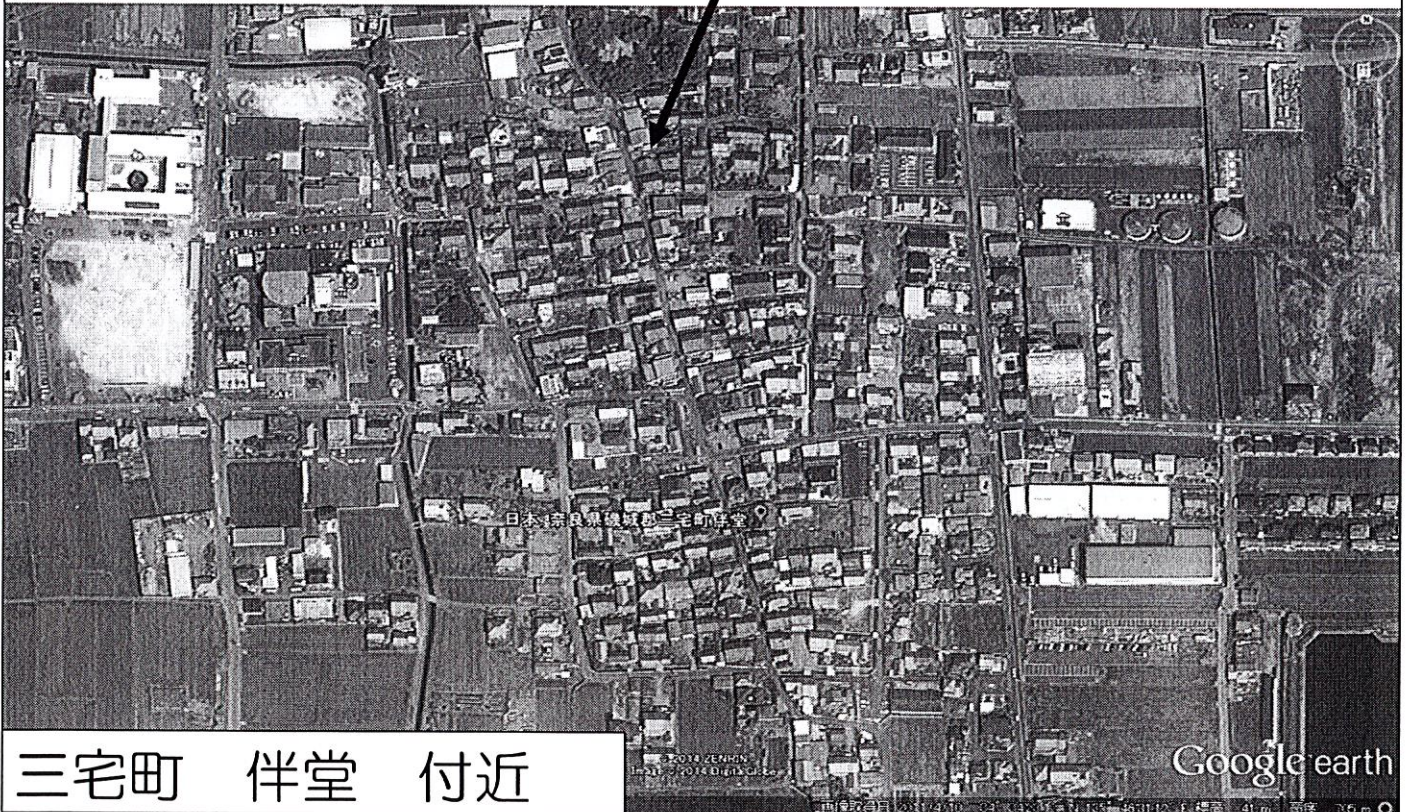
「是歳（ことし）、皇太子、亦法華經を岡本宮に講（と）く。天皇大きに喜びて、播磨国の水田百町を皇太子に施（おく）りたまふ。因りて斑鳩寺に納（いれたまふ）。」

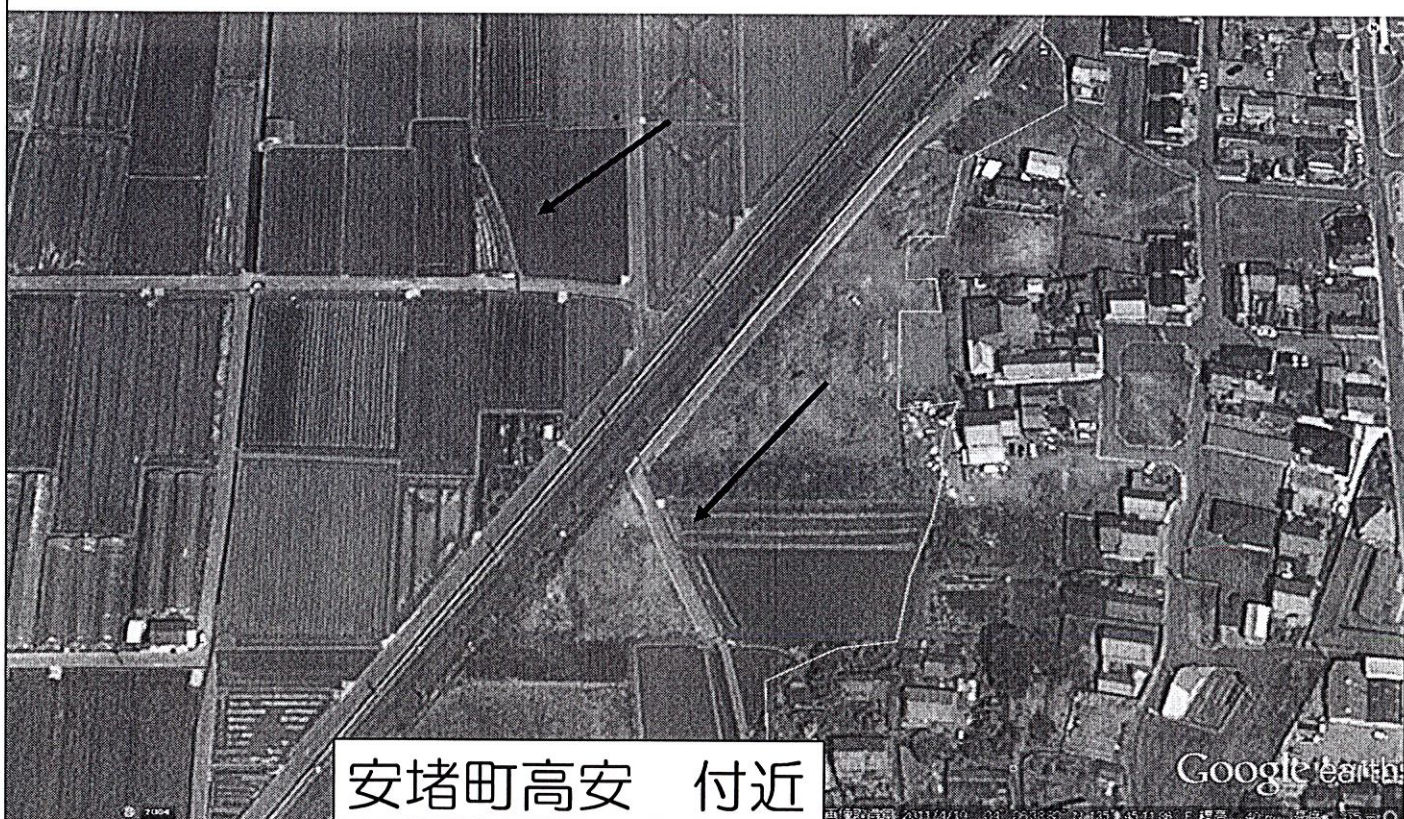
法起寺
(岡本宮)

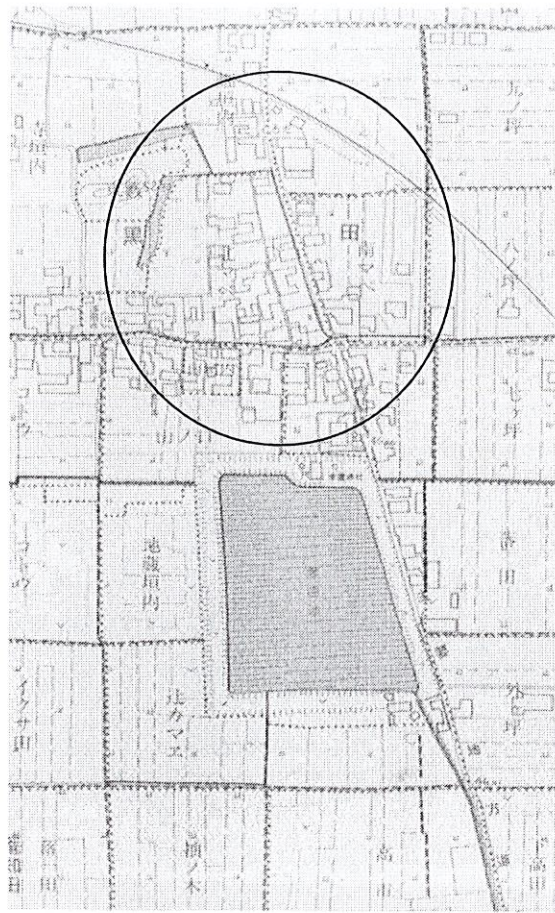


三宅町 伴堂 付近

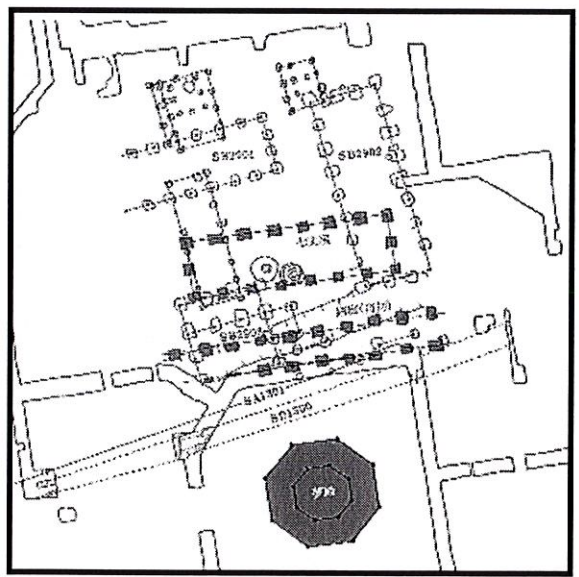
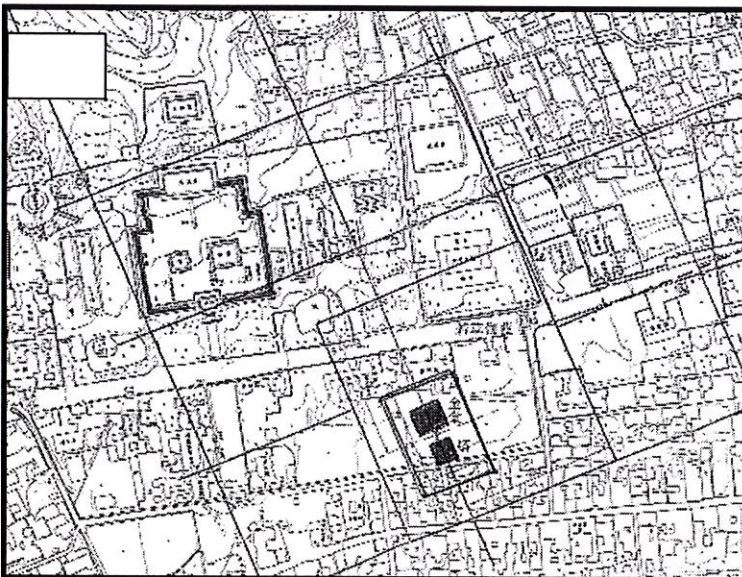
太子道







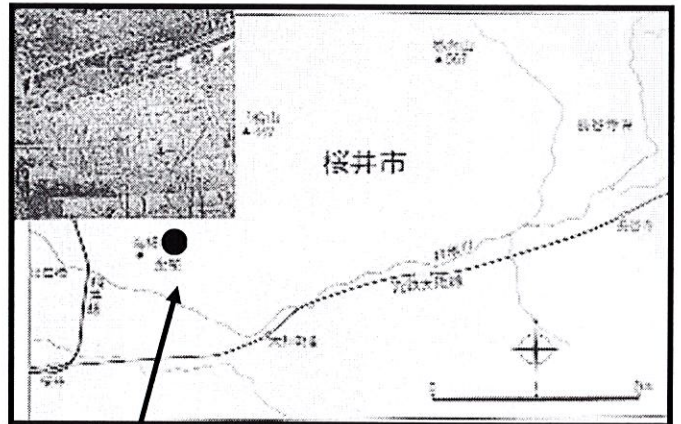
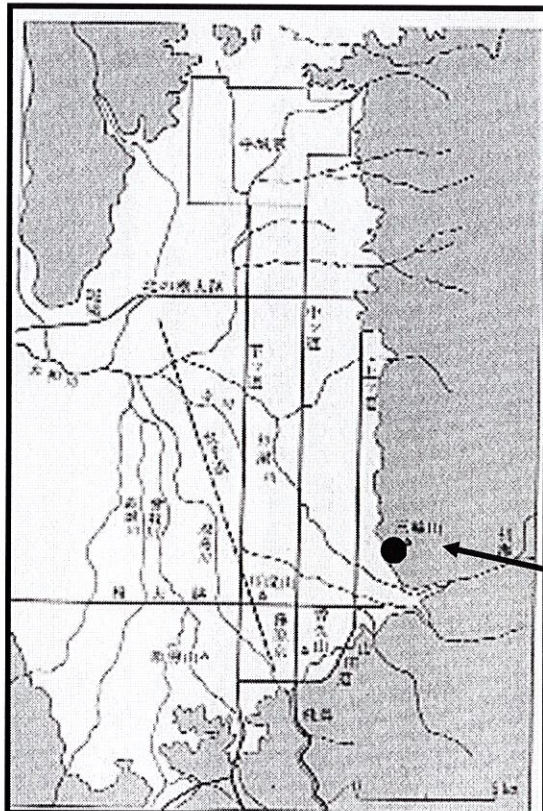
斑鳩寺(法隆寺)と斑鳩宮



8月 唐の客、京に入る。是の日に飾騎
(かざりうま)七十五匹を遣して、唐の客
を海石榴市(つばきいち)のちまたに迎ふ。

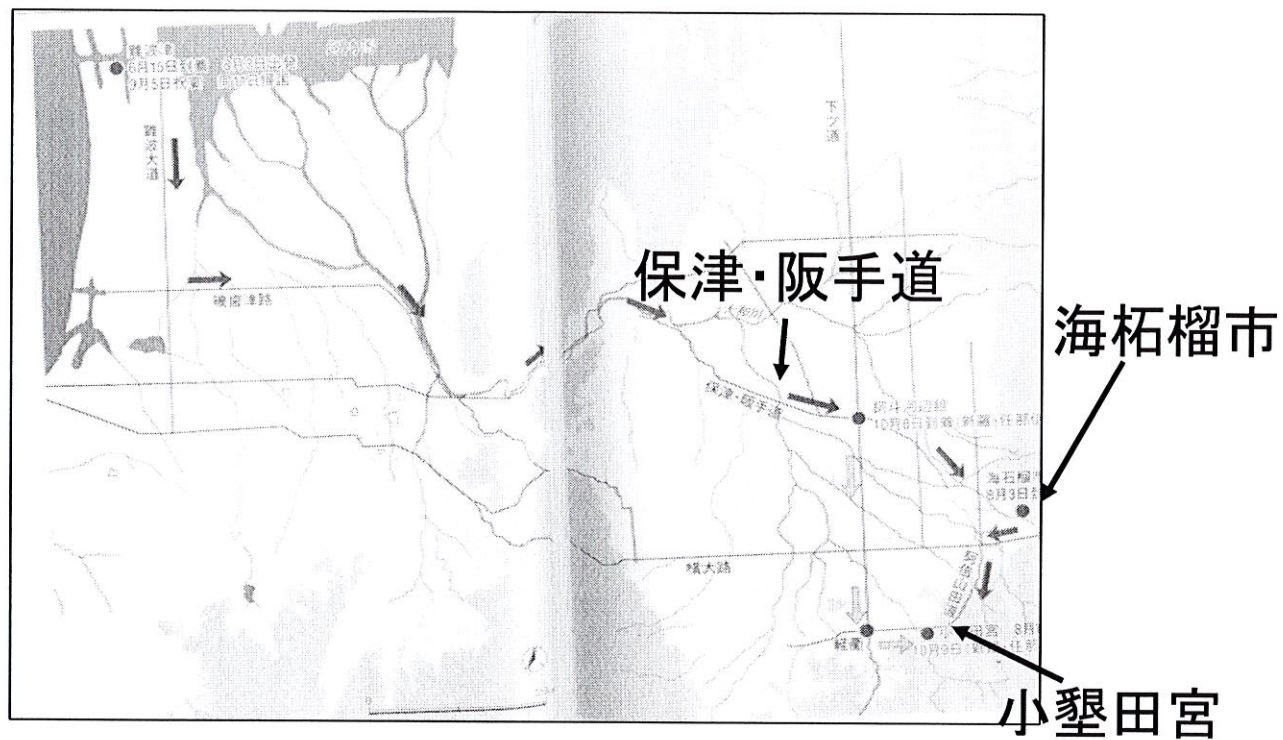
難波から大和川の水運で、海石榴市
⇒小墾田宮

海石榴市



海石榴市(桜井市金屋)

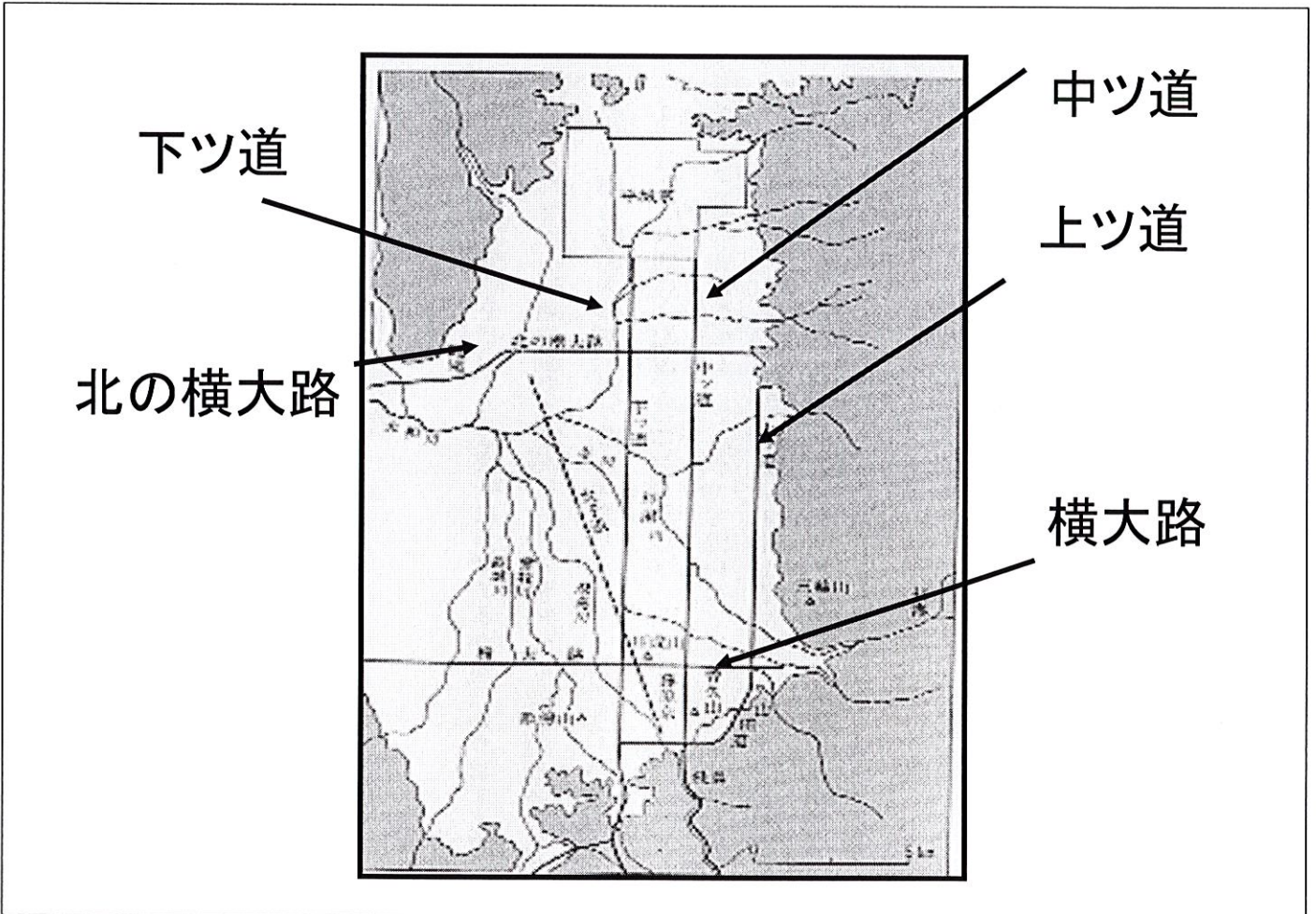
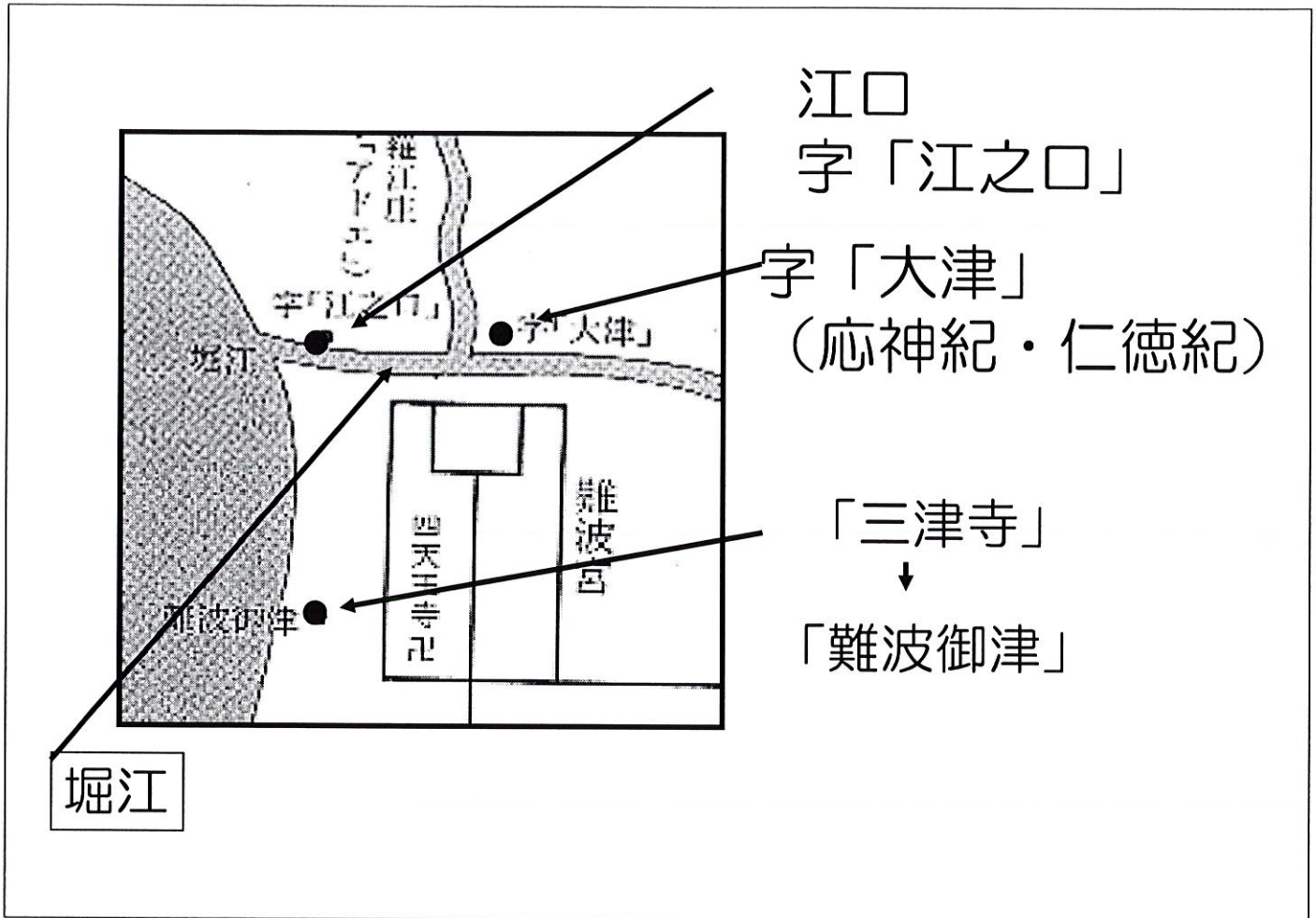
新説に対する疑問



チマタとは？

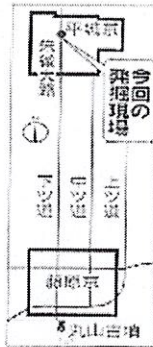
道股 チマタ

ミチとは？ ミ＋チ



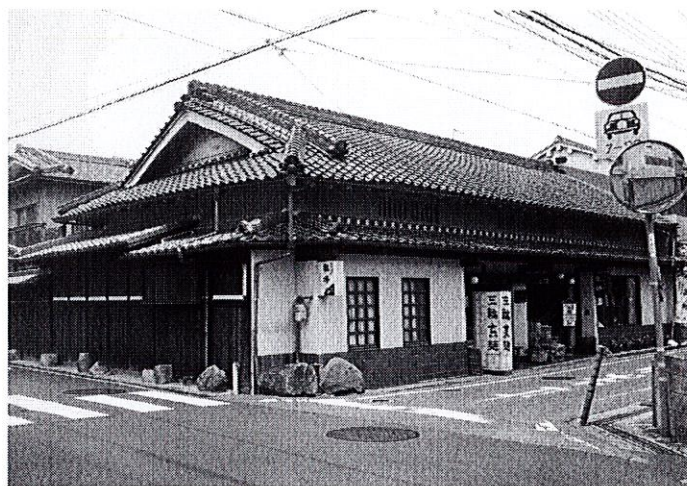
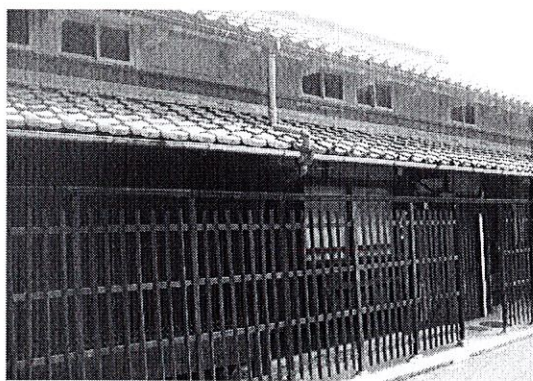
[illegible]

7世紀初
須恵器を出土

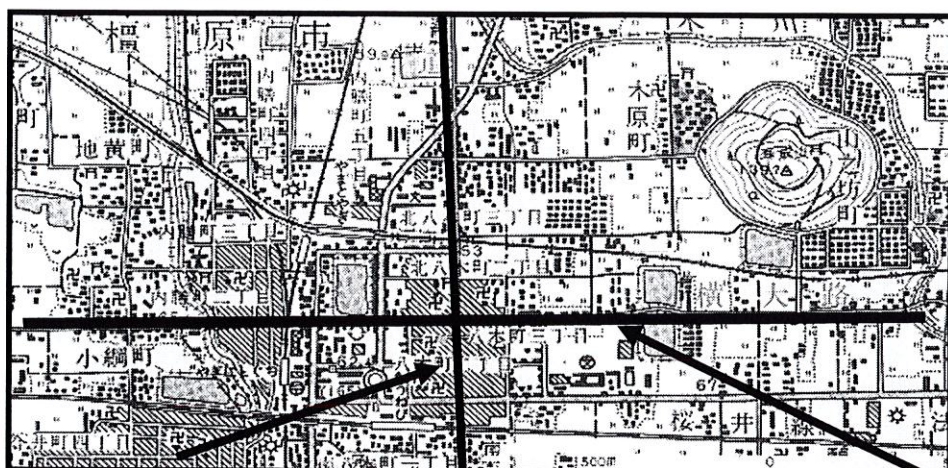
[illegible]

『…今故(ことさらに)道を清め館を飾り、以て大使を待つ。…』

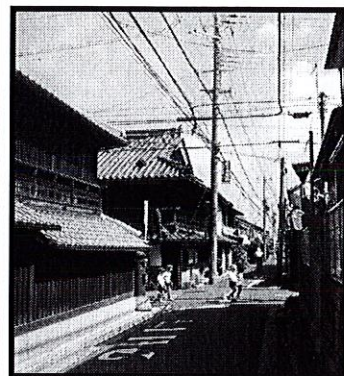
横大路



第5次 推古18年(610)「隋書煬帝紀」 「倭国使、到り、方物を貢す」 (推古21年(613)難波から京にいたる 大道を開く)



下ツ道



横大路

http://kanko-tenri.jp/kanko_guidance/hokubu/wanisita_zinzya.html

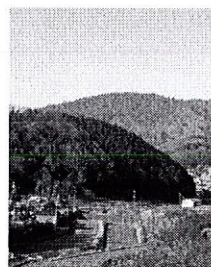
ミチと神

北の横大路



和爾下神社

横大路



忍阪山(外鎌山)

中ツ道



ミハ山 △

ご静聴ありがとうございました。